

令和5年度 事務事業評価シート（1）

[令和4年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	中学校夜間学級給食運営事業			事業番号	038-093
担当部署名	教育委員会事務	局	学校管理	部	学校給食 課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	—	施策	—
			無	取組の方向性	—		—
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		—
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	—	ターゲット	—
			無	取組	—		—
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		—
		無	現状値	—	目標値	—	

2	関連計画	—		
3	事業開始年度	昭和 47 年度	点検対象年度	令和 7 年度
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	—		

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁				
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	堺市立殿馬場中学校 (夜間学級) の生徒 91人 (R4.5.1時点)	対象数	91	単位	人
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	中学校 (夜間学級) で学ぶ生徒の健康保持と修学支援のため				
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	中学校 (夜間学級) において、夜食として牛乳とパンの補食給食を無償で提供する。				
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など					
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	—				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)	—				
10	公民連携・協働事業	—				

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標 点検対象年度
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度
	アンケート調査による満足度	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	97	70		
			達成率	97%	70%		
	当該指標を選定した理由	■ 修学支援という目的への貢献度を、生徒の満足度の観点から図るため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	■ 補食給食が、授業を受ける上で役立っていると答えた人の割合					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標	
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	給食実施日数	日	目標値	—	196	194	
			実績値	202	194		
			達成率	—	99%		
	当該指標を選定した理由	事業の活動状況を端的に表すため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	給食実施予定日を設定					

令和5年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	中学校夜間学級給食運営事業	事業番号	038-093
-------	---------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和5年度
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算
事業費 (a)	1,220	973	1,629	756	1,292
13 財源内訳					
国支出金	39		0		0
府支出金			0		0
市債			0		0
その他 (物品売払収入)			16	9	15
受益者負担金(使用料、手数料等)			0		0
一般財源	1,181	973	1,613	747	1,277
14 人件費 (b)	820	820	820	820	810
15 年間経費(c)=(a)+(b)	2,040	1,793	2,449	1,576	2,102

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度	事業費	うち一般財源
16 事業費内訳	パン・牛乳食糧費	756	747		R4	決算	
				R5	予算	1,292	1,277
		R4	決算		R4	決算	
		R5	予算		R5	予算	
		R4	決算		R4	決算	
		R5	予算		R5	予算	
		R4	決算		R4	決算	
		R5	予算		R5	予算	
		R4	決算		R4	決算	
		R5	予算		R5	予算	

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和3年度	令和4年度
① 給食実施日	日	202	194
② 上記①にかかる年間経費	千円	1,793	1,575
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	8,876	8,119
備考 (算出についての説明等)			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18 発注数量の精査により経費は減少しており、費用対効果の点でもおおむね評価できるものである。

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19 ■中学校 (夜間学級) は、様々な理由で義務教育を修了できなかった方が通学されており、補食給食を無償で提供することは、夜間過程の限られた時間の中で、生徒間に差を生じることなく生徒が空腹を満たすことができ、また、一同に食することで生徒間や教職員とのよいコミュニケーションの場となっている。

■補食給食が授業を受ける上で役立っていると回答した人は70%であるが、ほぼ毎日給食を利用している人については92%が役立っていると回答しており、中学校 (夜間学級) で学ぶ生徒の修学支援に一定の効果を上げているといえる。